

CAMPUS COMMUNICATION

CELERY

中村学園大学・中村学園大学短期大学部 広報誌【セロリ】

2011

1

January

No.

78



特別調理実習
開始

第44回霜月祭

創立50周年並びに新校舎落成 記念式典・祝賀会



そうですね

(木原先生の口癖)

人間発達学部人間発達学科
木原ゼミ

3年生 12人

准教授 木原 美樹子先生

／ あったかな人柄が大好き! ／



Vol. 20

WAGAZEMI

Welcome to Our Seminar

わがゼミ案内



文学を通して分析力と豊かな想像力を培う

人間発達学部で唯一の英語ゼミとして人気を集める木原ゼミ。英米の児童文学や英語教育を研究しています。お茶を飲みながら和気あいあいと、けれど活発な意見が飛び交う明るいゼミです。

「先生の口癖は『そうですね』。どんな意見もまず受け止めてくれます」とゼミ生たち。包容力豊かな木原准教授のもと、学生はのびのびと研究を行っています。

木原ゼミの大きなテーマは英米児童文学を軸にその背後の文化も含め、ことばの現象について研究するというもの。例えば、昨年のゼミ生のテーマはマンガを題材にしたオノマトペ（擬音語・擬態語）の日英比較。オノマトペは日本語と英語でどう違うのか、翻訳上どのようなことが問題となるのか…。そうした研究などから、ことばの面白さ、英語で書かれた児童文学の深さを考えていきます。また、来年度から公立小学校で外国語活動が必修になることから、小学校における英語教育を研究テーマとする学生が増えました。

木原先生の方針は、自主性や積極性を育てること。ゼミでは学生各人が興味のある題材を個々に調べて授業で発表し、自由に意見を交わし合います。「お互いにディスカッションして刺激し合い、研究を深めていく」のが木原先生の狙いです。「ナルニア国物語」のC・S・ルイスや「ピターラビット」で有名な作家ピア

トリクス・ポターについて、小学校における英語の教授法など、テーマはさまざまですが、ゼミ生は「他の人の研究を聞くと勉強になる」、「研究不足を自覚できたり新たな視点に気付かせてもらえて次につながる」と意欲的。他学生の研究から興味がわき、その本を読み始めるなど、視野を広げる学生も少なくありません。切磋琢磨して自然に研究を掘り下げ、卒業論文へと進めていくのです。

また、「みんなで共に学ぶ体験を」との木原先生の提案で、学生自らがNHK教育テレビの英語番組「リトルチャロ」を教材に選び、英語力を鍛えています。学生は自宅で番組を見て、ゼミで復習。「一人で続かないかも。でも、仲間と一緒に楽しく続けられる」と好評で、テキストの読み合わせをしている様子は本当に楽しそう。「苦手な英語が好きになった」という学生もいます。

そんな教え子たちを穏やかな笑顔で見守る木原先生。英米文学や英語の研究を通して「分析力と想像力を育ててほしい」と語ります。「論理的な思考は大切ですが、想像力は創造力につながります。子どもの教育にかかわる人として、そういう部分を大切にできる人間になってほしいのです」

同学部が教育学部へと生まれ変わる来年度、学生たちは4年生。いつか木原先生のようなあたたかな眼差しをたたえた教育者になっていくのでしょうか。



CONTENTS

- 16 付属幼稚園だより
- 15 EVENT & NEWS
学内外のイベント
教員表彰 研究助成・受託研究採択
- 14 平成23年度 入試結果・お知らせ
- 13 短期大学の報告
- 12 学生の活躍
- 11 サークル紹介
【在学生のページ】
裏千家茶道部
- 10 卒業生インタビュー
【卒業生のページ】
就職課コラム
- 09 発達支援センター 親子教室開催
西日本シティ銀行と
産学連携協力に関する協定を締結
- 08 流通科学研究科セミナー開催
中村学園大学大学院
- 07 記念式典・祝賀会
中村学園女子高等学校創立50周年並びに新校舎落成
- 05 第44回霜月祭
- 03 「特別調理実習」開始
短期大学部食物栄養学科で
木原美樹子ゼミ
- 01 わがゼミ案内
人間発達学部人間発達学科



短期大学部 食物栄養学科で 「特別調理実習」開始



中村調理製菓専門学校で調理技術の 向上をはかり、食の楽しさを深める。

今年度後学期から短期大学部食物栄養学科の学生を対象に、中村調理製菓専門学校での実習授業「特別調理実習Ⅰ」が始まりました。

学校の枠を越えた新たな取り組みのねらいは？

同学科主任の松隈紀生教授にお話をうかがいました。

今の学生は圧倒的に 調理経験不足

「特別調理実習」は昨年9月から火・木・金曜の3班に分けてスタートし、12月で計12回を終えました。1月には中村調理製菓専門学校において実技と筆記の試験が行われ、1単位を短期大学部で認定する授業です。

「特別調理実習」の一番の目的は、学生の調理技術のレベル向上です。

食物栄養学科は、中村学園の中で最も長い歴史と伝統を誇る学科です。卒業生の多くは病院や保育園、幼稚園、食品会社等で、栄養、健康と食品の専門家である栄養士等として活躍していますが、最近現場から「もっと調理技術のレベルを上げてほしい」との声が聞かれるようになりました。



食物栄養学科主任 松隈 紀生教授

食物栄養学科でも2年間に約200種類の料理の実習を行い、授業以外にも調理の練習のために調理実習室を開放しています。しかし、家庭で食事の支度を手伝う機会が減り、学生の調理経験は圧倒的に不足しています。

調理技術や知識は、回数を繰り返して体でおぼえていくものです。技術のレベル向上には、とにかく調理する機会を増やさなければ。

また、多くの学生たちが就職する施設などは、現場に応じた調理法があり、応用の利く幅広い知識や技術は必ず役立ちます。短期大学部の調理学実習では基本技術を学ぶので、「特別調理実習」は応用編と位置づけ、基礎的な技術の幅を広げられる内容にしました。



百田ひかりさん
料理が好き。いろんな料理を知りたくて講座を受けました。おいしい料理を作って、いろいろ知ることができました。



牧野智美さん
短期学部では使わない食材や調味料を使うので面白いです。塩こしょうの仕方などのちょっとしたコツや、材料を無駄なく使い切る工夫も教わって役立ちます。



先生の説明を熱心にメモにとって...

笑顔輝く実習に潜入!

こんなおいしい料理を自分たちが作れるなんて!

12月に行われた第10回の「特別調理実習」。中村調理製菓専門学校鎌田裕之准教授による西洋料理の実習。海の幸のクリームコロッケ、緑レンズ豆のポタージュコンティ風、キャベツの千切りサラダに挑戦しました。ポイントは「パン粉をつけたものをきちんと揚げる」、「引き切り、押し切り」、「旨みを出すようにしっかりと炒める」です。

最初に鎌田先生が、料理名の由来や食材の豆知識、プロのコツなどを交えながらデモンストラーション。その後は班に分かれて実習です。「職場では時間内に作る事が大事。チームワーク、作業分担の判断力も鍛えてほしい」と、制限時間を決める鎌田先生。教室はまさに戦場と化します!

しかし、できあがったの試食ではみんな満面に笑顔を浮かべていました。

鎌田先生は「新しい料理を知りたい、技術を深めたいという意欲を感じます。調理は回数こなすことが一番の上達法ですし、この講座が皆さんの役に立てば」と話してくださいました。

調理師免許取得を視野に入れて

学生に「就職先では高い調理技術が求められている」などの現状も説明したところ、放課後を使つての授業ですが、予想を大幅に上まわる計114名の学生が希望しました。

食物栄養学科には食や料理に興味のある学生が集まっていますから、調理の専門学校で学ぶ経験はとても楽しいようで、笑顔の報告をしてくれます。おいしいものを作る楽しさや喜びは意欲を高めまし、社会人になってから

も役立つと実感しているところです。

私も中村学園の出身ですが、私が在学中は放課後に中村料理学院(中村調理製菓専門学校の前身)へ勉強に出掛けていました。同校が福岡市中央区の平尾に移転したため料理学院での実習は中止されましたが、このたび中村調理製菓専門学校と協議を重ねて「特別調理実習」が実現しました。

できることなら、もう一歩進めて、短期大学部在学中での調理師免許状の取得を視野に入れていきます。課題は多いと思いますが、学生の要望も高いのでぜひ実現を目指したいと考えています。



即座に作業を分担し、取りかかります



「おいしーい」笑顔がほころびます



できました! 完成品

第44回 霜月祭

11/4THU ▶ 6SAT
3DAYS



**最高に盛り上がった学園祭が
開催されました！**

食材や味にこだわったB級グルメなどの模擬店や、作品展示、ミスキャンパスコンテスト・王子様コンテストなど、みんなの絆がさらに深まった3日間をレポートします！

第28回ミスキャンパスコンテスト

11月5日(金) / 体育館

霜月祭の花形「ミスキャン」。なかでも、毎年のお楽しみはテーマに沿って自分の個性をアピールできる「アピールタイム」です。今年のテーマ「恋する乙女」はなんと高校時代に戻って、憧れの先輩に恋の告白をするという設定。エントリーした10名の美女たちは可憐な制服姿で登場し、憧れの先輩にさまざまな恋の告白を行いました。今年は博多弁はもちろん、大分弁や宮崎弁などが飛び交い、郷土色豊かな告白が相次ぎ、会場が飛び交い、笑いと拍手。男の子たちの頬は緩みっぱなしでした。

ラストを飾るのはウエディングドレス！個性豊かなドレスを身にまとった美女たちは圧巻の美しさで、会場からは大きな歓声とため息が漏れました。

レベルの高い競争を制して今年のミスキャンパスに選ばれたのは立石里穂さん（キャリア開発学科1年）。準ミスは藤田紗綾子さん（流通科学部2年）、審査員特別賞は吉野いづみさん（幼児保育学科2年）が受賞しました。



ミスキャン 立石里穂さん



審査員特別賞 吉野いづみさん



準ミス 藤田紗綾子さん



人気店がズラリ！

模擬店

豆腐団子

学園祭実行委員会広報パートは案を出し合い、「豆腐団子」の模擬店を出しました。「学園祭には子どもたちもたくさん来てくれるので、子どもも好きなものにしました。注意したことはお豆腐のかたまりができないように、よくつぶして作ったこと」と人間発達学部2年の早田朱里さん。味はきなこことみたらしの2種。豆腐入りのフワフワして美味しいお団子はとってもヘルシーでよく売れていました。



一度食べたら
止められない
味ばかり

B級グルメ模擬店

ロコモコ



学園祭実行委員総務が作ったのは、卵とハンバーグのハーモニーがたまらないロコモコ。ボリュームたっぷり、珍しいこともあって大人気。「どうしたら回転率を上げられるか、ロコモコ1つでみんながつながりました」と班長で流通科学部2年の福永剛大さん。お米に福岡県産の「元気つくし」を使っているのが特徴。つやとほどよい粘りがあるお米も皆がみしていました。

ヘルシー巻き、おふくろのワンタン

本学では海外からの留学生もたくさん学んでいます。留学生国際交流会では中国、ベトナム、韓国からの学生が毎週日曜日にサッカーで交流。模擬店では「ヘルシー巻き」、懐かしいおふくろの手料理の味がする「おふくろのワンタン」、「緑豆のお茶」を出しました。会長で大学院流通科学研究科1年、大連出身の王殿勇さんは「『ヘルシー巻き』は野菜がたっぷり入ってますよ」とアピール！



王殿勇さん





理事長賞・学長賞結果

理事長賞【フードバザー部門】

第1位 3団体同数

- ・内田ゼミ(かしわおにぎり)
- ・橋本ゼミ(うどん)
- ・留学生国際交流会
(ヘルシー巻き、おふくろのワンタン、緑豆茶)

学長賞【展示・ステージ部門】

①中村ミュージアム(食育館)

第1位 書道部

第2位 クリスタルハーモニー

②野外ステージ(グラウンド)

第1位 和太鼓部

第2位 バトン同好会



子どもに大人気!

魚つり・輪なげ 古賀ゼミ(幼児保育学科) 西2号館(食育館)



子どもたちが楽しめる「魚つり」と「輪なげ」を用意したのは古賀ゼミのメンバー。ゼミでは一人ひとりテーマに添った作品を制作しています。木を使ったり、布を使ったり、紙に描いたり。「古賀ゼミは自由に想像力を発揮するのが魅力です」と幼児保育学科2年の西岡友里さん。イベントでは1年生が道具を作り、2年生が運営に当たったとのこと。「魚つり」と「輪なげ」の周りには子どもたちがひっきりなしに集まっていた。

子どもたちが楽しめる「魚つり」と「輪なげ」を用意したのは古賀ゼミのメンバー。ゼミでは一人ひとりテーマに添った作品を制作しています。木を使ったり、布を使ったり、紙に描いたり。「古賀ゼミは自由に想像力を発揮できるのが魅力です」と幼児保育学科2年の西岡友里さん。イベントでは1年生が道具を作り、2年生が運営に当たったとのこと。「魚つり」と「輪なげ」の周りには子どもたちがひっきりなしに集まっていた。



たまには大変身!

ミスカマコンテスト グラウンド



男子学生が女装、女子学生が男装して競う「ミスカマコンテスト」。ぱっちりメイクで衣装をまといステージ上がった美男美女10人に、みんな目をばちくり! あの子は男の子? それとも女の子? 出場者の1人、栄養科学部2年の峰沙佳子さんは羽織袴姿で登場。「去年も出場して面白かったから、また出ました。羽織袴なんて、こういう機会でないを着ることもないから。詰め物を入れて、ちょっと苦しいけど。メイクは眉を太く描いてもらいました」と楽しそうでした。

また出ました。羽織袴なんて、こういう機会でないを着ることもないから。詰め物を入れて、ちょっと苦しいけど。メイクは眉を太く描いてもらいました」と楽しそうでした。



日本文化を体験!

お茶会 裏千家茶道部 学友会館



美しい着物姿でお客をお迎えした裏千家茶道部。りんとした表情でおもてなしする部員たちにお客様はほっと一息。部長で栄養科学部3年の引地由季さんは日本の文化に触れたいと思い、茶道を始めたとのこと。楽しくお稽古しています。「今日は茶道部の先輩や友人など、いろんな方々が来てくれました」と嬉しそうでした。

展示

文化サークルの力作ぞろい!!



書道部 西2号館(食育館)

毎週火曜、木曜に活動している書道部は、一人ひとりが好きなものを選んで取り組み、さまざまな大きさの作品を展示しました。「私の少女時代」がテーマの合同作品は親しみが持てるかと評判。「部員みんな仲が良く、和気あいあいと練習しています。書道をやっている、履歴書を書くときに役立ちますよ」と人間発達学部3年の西原りえさん。



左が西原りえさん 右は人間発達学部4年の日高友紀さん

さつまいもご飯&ツナしめじご飯

ご飯系にトライしたのはバスケットボール部。男女合わせて約60人の部員は何よりバスケットが好きな仲間たち。「去年好評だったので、引き続き今年も作りました」と合宿係で流通科学部3年の大津優奈さん。合宿には、毎年違う場所を企画して行っているそう。



焼ドーナツ

バドミントン同好会の模擬店は揚げずに焼くからとってもヘルシーと、最近人気の「焼ドーナツ」。紙コップにミニサイズ4個入りで120円。プレーン、抹茶、チョコバナナ、ミルクティーと4種の味が楽しめました。流通科学部2年で会計担当の一三絵理さんは「模擬店の活動を通してみんなさらに仲良くなったと思います」とにっこり。



祝 中村学園女子高等学校創立50周年
並びに新校舎落成記念式典

式次第
1. 開会
2. 校歌斉唱
3. 祝詞
4. 祝賀演説
5. 祝賀演奏
6. 校歌斉唱
7. 閉会

女子高校はおかげさまで



中村学園女子高等学校 創立50周年並びに新校舎落成

記念式典・祝賀会

平成22年11月5日(金)

平成22年11月5日、中村学園女子高等学校では創立50周年並びに新校舎落成を祝う記念式典・祝賀会が行われました。

午前10時開会の記念式典には約1,300人が出席。会場となった木のぬくもりに包まれた新しい講堂には、学園祖中村ハル先生の肖像写真が大きく掲げられており、ハル先生が式の進行を見守っておられるようでした。

国家斉唱の後、角薫校長が、これまでの道のりは決して平坦ではなかったが、50年の歴史を築き上げて来れたことは、3万人を超える卒業生をはじめ本校の教育をご支援頂く多くの皆様方のおかげであることに感謝し、今後さらにより良い教育を目指し邁進したいと式辞を述べ、続いて、ご来賓の福岡県私学協会新田光之助会長と、姉妹校である米国カリフォルニアのセント・フランシス・ハイスクール、パトリック・J・オニール校長がお祝いの言葉を述べら

れました。

また、中村量一理事長は「輝ける未来は優秀な人材が創る。教育とは未来を創る産業であり、今、ここにいる生徒の皆さんがそれを担っています。中村学園女子高等学校は、これからも学園祖の理想と建学の精神を堅持して10年先・20年先にも卒業生、保護者、社会から支持される学校でありたい」と挨拶されました。

式は終始、厳肅な雰囲気で行われ、最後に校歌を斉唱して式典が終わりました。

続く祝賀演奏では、今、世界が注目するピアノニストの高雄有希氏が登場。同校で50年使われ、このほど職人の手により完全にオーバーホールされたピアノで演奏が行われました。

同氏は、10代から国際コンクールで受賞を重ね、現在欧米を中心に演奏活動を続け、絶賛を博しているピアノニストです。



福岡県私学協会
会長 新田光之助様



セント・フランシス・ハイスクール
校長 Patrick Joseph O'Neill 様



角校長



中村理事長



祝賀演奏
ピアノ 高雄有希氏



祝賀会



この日は、ラフマニノフの「鐘」、ショパンの「舟歌」、「英雄ポロネーズ」を力強く、流麗に奏でて、会場はうっとりとした音に浸っていました。新しい講堂に、印象的な音が刻まれた日でした。

その後、会場を福岡市内のホテルに移し、祝賀会が開かれました。冒頭、同校50周年記念曲として小長谷宗一氏により作曲された「ジュニアス・6月の清楚な娘のために」を、吹奏楽部が演奏。この日のために一生懸命に練習した成果を見事に披露、会場から暖かい拍手が寄せられました。同校バスケットボール部OBの山本華世氏の軽妙な司会進行によって、会場はほのぼのとした和やかなムードに変わり、出席者は同校の50年の思い出と未来について、楽しく語り合っていました。

流通科学研究科セミナー開催

アジアビジネスと九州成長戦略



講演前には藤本淳学長が挨拶

平成22年12月7日、本学西2号館において大学院流通科学研究科セミナーが行われました。講師にお招きしたのは、九州経済の最前線を知る九州経済産業局長の滝本徹氏。地元経済界からも多くの参加があり、「九州がもっと発展するために必要なものは何か」という示唆に富んだお話に熱心に耳を傾けました。

～若者のチャレンジに期待する～

講師

滝本 徹氏

経済産業省
九州経済産業局長



アジアとともに成長しよう

「少子高齢化の時代、日本経済は縮小しています。海外に出なければ成長はなく、アジアとともに成長するのが日本の成長戦略の基本。九州から新しいビジネスのステージを作っていくなくては」と滝本氏。最新の情報を軸にさまざまな角度から分かりやすく現状をひもとき、私たちが取るべき戦略を示されました。

まず日本の産業の現状を解説し、「日本は技術はあるがビジネス力がない」などの問題を指摘しました。液晶パネルなどかつて世界でトップシェアを誇った分野も、コスト面などの国際競争力の弱さからアジアの企業に遅れをとっているのが現実。しかし、成長中のアジアの社会的インフラ整備や、急増している中間層の需要にチャンスも、「最終製品ではなく、付加価値の高いシステム輸出やソリューション提供、日本の文化や信頼性などを商品に」と提言されました。

アジア向けイン

フラ輸出の可能性や、東アジアの経済や技術交流の深化を目的とした環黄海会議など、多岐にわたる情報や話題を提供されたなか、私たちに身近だったのは、地域産業や農工商連携の可能性についての一説です。地域活性化の手だてとして、9割が地方にある農林水産業や食品関連産業の振興をあげ、「日本の食品関連需要は74兆円。加工・流通+外食で動くお金をいかに農業に落とすかが鍵」。日本の食品は見た目や味、安全性から世界の評価が高いため、輸出拡大が期待されていますが、なかなか外需開拓が進まない現状を踏まえ、「日本に足りないのは生産性とイノベーション」などの課題を示されました。

最後は、グローバル産業人材育成や、国内外の環境関連ニーズに向けた企業連合の構築などの、九州成長戦略アクションプランを紹介。

講演冒頭で「若い人の海外志向が低下している」と危惧された滝本氏ですが、講演を締めくくった言葉は「海外に旅行に出ることも大事。百聞は一見に如かず。自分の目で見てあなたが第一歩です」と学生や院生にあなたかなエールを贈ってくださいました。

祝10周年
流通科学部開設10周年を記念して、懇親会が開かれました。



懇親会では中村量一理事長が挨拶

所を移動して流通科学部開設10周年を祝う懇親会が開かれました。

学園祖中村ハル先生の時代から連続と続いてきた「地場企業」とのつながり、「食」へのこだわり、「アジア」との連携など、よそにはない強みを持つた同学部は、10年間ですっかり福岡に定着することができました。この日は、同学部の発展に尽力された先生方や学内外の関係者が集まり、開設10周年を祝いました。出席者の方々はゆつたりと歓談し旧交を温め、互いに新たな知識や交流を深め合う場ともなったようです。



親子でいっしょに 楽しく遊ぼう!

発達支援センター親子教室が
開かれました。

大学が
子育て支援

発達支援センターは、中村学園大学が長年培ってきた「保育の力」を生かし、地域貢献の一端を担いながら、子どもの保育や教育原理の研究、技能及び実践に役立つ活動を行っています。その一環として毎年開かれている「親子教室」をレポートします。

今年度の親子教室は、平成22年10月14・30日、11月11・25日の計4回開かれました。参加されたのは、地域の親子（1〜2歳児）の皆さんです。毎回、本学教員によるミニレクチャーが行われ、親子遊びや保護者同士のフリートークキングなどの時間が設けられました。

第1回目は本学・発達支援センター多目的ルームで、手遊びや保護者と一緒に行える遊び、絵本の読み聞かせ、佐々木美智子教授（人間発達学部）による「子どもの発達について」のミニレクチャーが行われました。最初は人見知りしていた子どもたちも、だんだんと雰囲気慣れてきた様子で、保護者の皆さんはミニレクチャーに熱心に聞き入っていました。

第2回目の会場は中村学園大学付属あさひ幼稚園で、「子ども発達と運動遊び」をテーマに古賀範雄教授（人間発達学部）によるミニレクチャーが行われました。親子でゴロゴロと床を転がったり、子どもを

ゆらゆらと揺らしたり、保護者がトンネルになって子どもがそれをくぐったり、親子で取り組める運動遊びが行われ、参加された皆さんはとても楽しそうでした。また、人間が体を動かすメカニズムや、子どもの発達における運動の役割の大きさについてのレクチャーに、参加された保護者は「楽しかった。体を動かすことの大切さがわかった」と納得された様子でした。

第3回目の会場は再び本学・発達支援センター多目的ルームで、「親子で歌おう」をテーマに笠井キミ子教授（短期大学部幼児保育学科）が担当し、「大きな栗の木の下で」や「むすんでひらいて」などを振り付けをしながら楽しく歌いました。ミニレクチャーでは、「歌を歌うことで、子どもは会話のやりとりやテンポを自然に身につけるので、家で子どもと一緒に歌ってほしい」と語りかけました。

最終回の第4回目は、同じく本学・発達支援センター多目的ルームで、「子どもの発達と絵本」をテーマに古相正美教授（人間発達学部）によるミニレクチャーが行われました。保護者の子育てについての不安や子育てにおける喜びなどを話すおしゃべりタイムもあり、保護者同士がコミュニケーションをとりながら親睦を深めることができました。最後に、親子教室4回分の写真と学生たちが制作した家でも遊べるおもちゃがプレゼントされました。

4回の親子教室を通して、保護者にも参加した学生たちにも子育ての大切さが再認識され、有意義で楽しい教室となったようでした。



西日本シティ銀行と 産学連携協力に関する 協定を締結

中村学園大学・中村学園大学短期大学部は、産学連携協力の促進により地域の発展と學術の振興に寄与するため、平成22年10月6日に西日本シティ銀行と産学連携協定を締結しました。

一、連携協定締結の目的

本学が持つ食・健康・流通・教育等に関する研究成果・ノウハウと、西日本シティ銀行が持つ取引先のネットワークを活用し、「地場産業支援」及び「講演会、共同セミナー」及び技術交流会」を軸とした産学連携・協力を促進させ、地域産業の発展と學術の振興に寄与することを目的としています。

二、連携協定の特徴

本学は、栄養分野・流通分野・教育分野の学部・学科を開設しているほか、栄養クリニク・薬膳科学研究所・流通科学研究所・発達支援センター等の設置により、これまで食・健康・流通・教育をテーマとした研究成果・ノウハウを地域社会に積極的に還元してきました。

今回本連携を通じ、本学のこうした研究成果・ノウハウを、九州全域にネットワークを持つ西日本シティ銀行の取引先企業を中心に幅広く社会に還元することにより、地域社会・経済の発展に貢献する

ものと考えています。

三、連携内容

- (1) 本学と西日本シティ銀行取引先との共同研究、技術相談等を通じた地場産業支援に関する連携・協力
- (2) 講演会、共同セミナー及びビジネス交流会の開催に関する連携・協力
- (3) その他、本学及び西日本シティ銀行が協議により認められた事項

四、当面の具体的取組み

本学と西日本シティ銀行取引先との連携による食をテーマとしたセミナーの開催
（西日本シティ銀行の取引先を対象としたセミナーを11月15日に開催し、流通科学部の甲斐教授が「食品廃棄物のリサイクルについて」をテーマに講演しました。）

本学と西日本シティ銀行取引先との連携による新商品開発への取組み
（西日本シティ銀行取引先による食品の新商品開発における、本学学生のアイデア活用について、現在調整中。）



中村学園大学・中村学園大学短期大学部
西日本シティ銀行
産学連携協力に関する協定書 調印式



卒業生 インタビュー



一人ひとりの生活習慣や 性格に応じて細やかな 栄養指導を心がけています 〜栄養指導のスペシャリストとして、今も学び続ける日々〜

浜の町病院 栄養管理室室長 酒井 陽子さん
平成6年度中村学園短期大学
食物栄養科現中村学園短期大学
食物栄養学科卒業

浜の町病院に勤務して16年目になります。就職して1年目は、朝から晩まで調理していました。2年目から献立づくりにも携わるようになり、管理栄養士の資格を取得した後は、患者様やご家族への栄養指導を任されるようになりました。現在は栄養管理室室長として、患者様の食事の全体管理と個人への栄養指導に力を入れています。

浜の町病院は、現在管理栄養士12名、栄養士11名、調理師5名と大所帯。若手栄養士の主な仕事は、私自身がそうであったように毎日の調理です。栄養士にとって、実際に調理ができることは何より大切。実際に調理ができなければ、献立づくりも栄養指導もできません。私も最初に徹底的に調理に携わったおかげで、調理の大切さを実感できたと思っています。

最初には「病院内で16年目になり、朝から晩まで調理して、いいな」と言っていたのを聞いて、いいな、と。もともと調理が好きでもっと勉強したいと思っていて、中村学園短期大学の食物栄養科に入り、就職先も病院の栄養士を選びました。病院が一番勉強できると思ったからです。

浜の町病院は調理に力を入れていて、通常食は毎食2種類用意して、患者様に好きな献立を選んでいただいています。パンも生地の状態で仕入れ、いつも焼き立てを提供。また、旬の食材を使ったオリジナルスープ（毎食30食）と焼ききたてパンをセットにした特別メニュー食の提供も行っています。スープのレシピは60種類以上あり、いろいろな病状の患者様に好評いただいています。美味しいスープばかりですが、



手間がかかるため、なかなか（笑）。実はこのスープをご指導くださったのは、中村学園大学を卒業し自衛隊で栄養士として勤務した後に、フランスで修業してシェフになった先輩なのです。調理を担当する若手の栄養士たちにとっても、いい勉強の機会になっているようです。

現在、栄養指導を行っている患者様は、糖尿病、腎臓病、アレルギー、食欲不振、手術後など、お一人おひとり状態が違います。食事療法は長く続けてもらわなければ意味がないので、ご家族の方ととも、その患者様の声を聴きながら性格や生活習慣を踏まえたうえで指導しています。また、医師、看護師、薬剤師、検査技師らと栄養サポートチーム（NST）で栄養管理を行っていますので、最新

の情報を入れたり、日々の勉強が大切になります。栄養士会、病院内など月に二、三度は勉強会に参加したり、学会への参加・発表等を通して常にレベルアップするよう努力をしています。

最近では調理にあまり関わらないので、毎日手作り弁当を持参するなどして、自分の調理技術やカンを鈍らせないよう気をつけています。

将来的には、もっともつと調理の腕を磨き、患者様と実際につくりながら食材の使い方を覚えてもらえるような栄養指導をやっていくのが私の理想です。患者様の病態がよくなくていく姿を見るのは何よりも嬉しいことなので、これからも勉強を怠らず向き合っていきたいものです。

就職課 コラム

先日、福岡県中小企業家同友会主催による「就職担当者と経営者との懇談会」が開催され、この会に昨年3月に短期大学部キャリア開発学科を卒業したばかりのM・Nさんも出席していました。彼女は中小企業家同友会に所属しているK社に就職し、総務部でリクレーターとして年上である就職活動中の大学4年生への面談等にも携わっています。学生時代は特に目立つ存在ではありましたが、話しぶりからは本当に輝いており、K社の社長からも即戦力として、十分活躍しているとお褒めの言葉をいただきました。日本における中小企業の占める割合は99%以上。大企業や誰もが知っている有名企業に就職することだけが幸せなのか、本当の意味での「やりがい」や「働きがい」は何なのかを改めて考えさせられました。

どのような企業を選んだとしても、就職とは「ゴール」ではなく、「スタート」であることに間違いありません。

CLUB & CIRCLE

礼儀作法、芸術、哲学、自然への感謝、周囲への気遣いなど
茶道にはさまざまな要素が含まれています。

週3回、学生たちは裏千家茶道を学んでいます。
マナーや美しい立ち居振る舞いを身につけ、季節感や美的なセンスを磨きながら、
茶道を通して、日本の食文化への理解をさらに深めようとしています。



裏千家茶道部

部長 / 引地 由季絵 (栄養科学部3年生)

部員数 / 19名

学友会館の1階には、日本庭園が望めるお茶室があります。ここで毎週月・水・金曜の16時半から20時まで、裏千家茶道部が活動しています。現在部員は19名。ほとんどの部員が大学に入って、初めて茶道に触れたそうです。4月の新入生歓迎茶会、7月の七夕お茶会、11月の霜月茶会、正月明けの初釜など、定期的にお茶会が行われています。水曜は、柴山三鈴先生がご指導にきてくださる日。先生が来られると同時に、学生たちは一人ずつ茶室に入り、先生に挨拶をし、掛け軸、お花を眺めて、退出します。そして、この日は、初心者のお茶生4名ほどと一緒に茶室に入り、お茶をいただく作法を教えてくださいました。上級生のお点前の練習では、時折柴山先生の「手が反対」、「そうじゃないでしょう、こうよ」とハキハキとした声が飛びます。柴山先生の作法を見て覚え、自分のものにしてい

くのです。「管理栄養士になるために中村に入り、日本の食文化について深く知りたいと思っていました。茶道部では、作法はもちろんですけど、日本の伝統文化を肌で感じることができ、着付けまで学ぶことができました」と話すのは、部長の引地由季絵さん。

「お茶の作法は、自然に覚えていくものですし、日常につながる礼儀作法の勉強にもなります。特にこの大学は「食」に力を入れているので、食べ方や食事法など「食」の勉強の一環として、お茶に取り組んでほしいと思います」と柴山先生。

「芸術、社会性、自然への感謝、宗教など、お茶のなかにすべてがある」との先生のお言葉通り、週3回のお茶の時間は、礼儀をはじめ、周りへの心遣い、季節感など、学生にとって多くのことを学ぶ機会になっています。

人間発達学部4年生・川村真理さんが 福岡J・アンクラスのなでしこリーグ残留に貢献

福岡市を拠点とする女子サッカーのクラブチーム「福岡J・アンクラス」。本学の川村真理さんは同チームのMF(ミッドフィールダー)として欠かせない存在です。平成22年10月31日に行われた最終節の試合では、チームの最下位・2部リーグへの転落の危機を救う大活躍を見せました。

昨年1部リーグに昇格したばかりの「福岡J・アンクラス」が対戦したのは「岡山湯郷ベル」。リーグ中堅の格上チームです。

落とせば最下位転落の可能性もある試合で、序盤に2点のピハインド。がけっぷちに追い込まれたチームを救ったのが、MF川村真理さんの2つのゴールでした。前半36分と後半38分、鮮やかに決めて、試合は引き分けに。自身にとっても今季初の2得点をたたき出した川村選手は、勝利をアシストしたDFの内堀選手と抱き合い、喜びを爆発させました。

1部残留を決めた福岡J・アンクラス。来季はさらなる飛躍が期待されます。

11月29日、川村さんは「春日・大野城・那珂川消防本部 一日消防長」に任命され、年末年始特別警戒パトロールの出陣式に参加しました。



右が川村さん

第26回 城南区市民アート展

今回で26回目となる「城南区市民アート展」の表彰式が、平成22年10月31日、福岡市美術館1階講堂で行われました。

本学からは、短期大学部食物栄養学科2年生の福島麗美さんが、書の部門において奨励賞を受賞しました。

また、中村学園女子高等学校の生徒も優秀賞、奨励賞を多数受賞しました。



表彰を受ける 福島麗美さん



福島さんの書「茶鼎松風午夢回」

女子プロボクサー黒木優子さん、 世界へ大きく羽ばたく！

世界ランキング25位に大躍進！



リンクス中原戦(2010年10月17日)

短期大学部食物栄養学科2年生の女子プロボクサー、黒木優子さん(関ボクシングジム)が、世界に向かって大きく羽ばたきました。

昨年5月23日には中国ライトフライ級3位のリウ・ダ・リン選手を、10月17日には2008年インターハイ、ピン級金メダルのリンクス中原選手(元宮崎日章学園高校ボクシング部)を相次いで破り、B級ライセンスに昇格。12月初旬には、OPBF(東洋太平洋)ミニフライ級10位にランクインされました。

さらに、12月26日のリウ・チー(中国フライ級2位)戦で、黒木さんは相手の体が吹き飛ばす強烈なパンチを決め、リウ・チー選手をリングに沈めたのです。わずか3ラウンド、

女子の試合には珍しいダウンを奪っての見事なKO勝ちでした。

試合後、黒木さんはOPBF6位に順位を上げ、試合内容の良さから、残り1試合の繰り上げが認められてA級ライセンスを取得。WBC世界ランキング25位に一挙に躍進したのです。いよいよ近づいてきた“世界チャンピオン”という夢を叶えるために、頑張れ、黒木さん! 次の試合は5月8日に決定。

2月には映画「あしたのジョー」の試写会で、主演の山Pこと山下智久さんとのトークを行います。



リウ・チー戦(2010年12月26日)



短期大学部キャリア開発学科の取組を発表



中
短



資格を身につけた学生を多数輩出することで、就職活動に成果を出すべく学生支援を行っています。

平成22年12月3日、福岡市内のホテルで中国・四国・九州地区の文部科学省G P意見交換会（平成22年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」、「大学教育・学生支援推進事業学生/就職支援推進プログラム」意見交換会）が開催されました。

本学からは、短期大学部が高知大学、広島国際大学、山口東京理科大学とともに発表校に選ばれ、平成21年度に採択されたキャリア開発学科の取組「組織的取組による短期集中型キャリア形成支援プログラム」について事例紹介を行いました。

発表はキャリア開発学科の梶田鈴子教授が務め、職業観・就業観を育成するキャリア関係科目等を配置した教育課程の充実、建学の精神にもとづく徹底した「マナー教育」の実施と能力開発のための「キャリアサポート体制」（キャリア情報管理システム、キャリアデザインシート、キャリアサポート講座、個別指導、就職基礎能力養成プログラム、キャリアサポート室）の構築について分かりやすく説明しました。また、事例発表後に行われた質疑応答では、清水誠教授が加わり詳細を解説しました。

本取組では、確かな職業意識のもとに、マナー、資格を身につけた学生を多数輩出することで、就職活動に成果を出すべく学生支援を行っています。

「社会人基礎力育成グランプリ2011」にキャリア開発学科・岩田ゼミが出場



この大会は、経済産業省が取り組む「社会人基礎力」（企業で働く人材に必要な基礎学力や専門知識に加え、課題の発見、解決に向けた実行力、異分野と融合するチームワークなどの基礎的な能力）の育成・普及活動の一環として、平成19年から実施されているものです。

平成22年12月13日、「社会人基礎力育成グランプリ2011」の九州・沖縄地区予選大会が福岡市の都久志会館で開催され、12大学・短期大学部キャリア開発学科の岩田京子准教授のゼミ（2年生）が「Volunt English」で国際交流・福岡発、アジアの上に橋を架ける！をテーマに発表を行いました。ゼミ代表の学生3名が、NPO法人アジア太平洋こども会議から依頼された英文報告書の翻訳ボランティアを通して、いかに社会人基礎力を高めたか、その過程について発表を行いました。惜しくも地区予選突破とはなりませんでしたが、学生たちは社会人基礎力の伸長を再確認するとともに、4月からの社会人生活に向けて気持ちを新たにすべく、契機となりました。



短期大学部プレカレッジ



平成22年12月18日、推薦入学選考合格者を対象に、短期大学部プレカレッジを実施しました。これは平成23年度入学選考合格者を事前に大学へ集合させ入学前教育を行うものです。

入学前教育の趣旨

- ・入学選考合格から入学までの期間（推薦入学選考では約4カ月間、試験入学選考では約1カ月間）の勉学意欲を維持・継続させる。
- ・入学後の大学の授業へスムーズに移行できるように、未履修または不得意科目の克服、音楽教科などの事前勉強を行わせる。
- ・大学授業等の概要を理解させ、履修や学園生活に必要な知識を得させる。

実施内容

食物栄養学科

- 授業～大学生活の流れ
- 勉強の仕方・シラバス・履修指導
- 栄養士の仕事と心構え
- 在学生との懇談

キャリア開発学科

- 大学生活の楽しい過ごし方（高校と大学の違い）
- ビジネスデー講座
- 事前教育課題について
- 在学生との懇談

幼児保育学科

- オリエンテーション
- 講義（器楽、声楽）
- 在学生との交流会

平成23年度 入試結果

競争率は、受験者数 / 合格者数 (小数点第3位以下を四捨五入)

中村学園大学大学院

研究科	専攻	課程	区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
栄養科学研究科	栄養科学専攻	博士前期課程	推薦	6	3	3	3	1.00
			一般(1次)		3	3	3	1.00
		博士後期課程	前期	3	2	2	2	1.00
流通科学研究科	流通科学専攻	修士課程	推薦	10	5	5	5	1.00
			一般(1次)		1	1	1	1.00
			社会人(1次)		2	2	1	2.00
			推薦		1	1	1	1.00
人間発達学研究科	人間発達学専攻	修士課程	一般(1次)	5	0	0	0	0
			社会人(1次)		2	2	2	1.00
			推薦		1	1	1	1.00

中村学園大学 (推薦入学選考)

学部・学科	区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
栄養科学部	公募制	70	151	151	85	1.78
栄養科学科	併設校	20以内	20	20	19	1.05
教育学部	公募制	80	195	194	102	1.90
児童幼児教育学科	併設校	15以内	15	15	15	1.00
流通科学部	公募制	20	48	48	42	1.14
	併設校	45以内	39	39	39	1.00
流通科学科	指定校	45	68	68	68	1.00

中村学園大学短期大学部 (推薦入学選考)

学 科	区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
食物栄養学科	公募制	37	84	84	60	1.40
	併設校	15以内	7	7	6	1.17
	指定校	60	64	64	64	1.00
キャリア開発学科	公募制	10	19	19	18	1.06
	併設校	15以内	15	15	15	1.00
	指定校	110	120	120	120	1.00
	公募制	75	127	126	101	1.25
幼児保育学科	併設校	15以内	15	15	15	1.00
	指定校	60	64	64	64	1.00

平成23年2～3月に実施される 入学試験のお知らせ

中村学園大学大学院 栄養科学研究科 (博士前期課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
第2次試験入学選考	平成23年 2月19日(土)	6名	平成23年1月24日(月) ～2月4日(金)
外国人留学生特別選考			平成23年1月17日(月) ～2月4日(金)

募集人員数：推薦・第1次試験入学選考含む

中村学園大学大学院 栄養科学研究科 (博士後期課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
後期試験入学選考	平成23年 2月19日(土)	3名	平成23年1月24日(月) ～2月4日(金)

募集人員数：前期試験入学選考含む

中村学園大学大学院 流通科学研究科 (修士課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
第2次試験入学選考	平成23年 2月19日(土)	10名	平成23年1月24日(月) ～2月4日(金)
第2次社会人特別入学選考			平成23年1月17日(月) ～2月11日(金)
外国人留学生特別選考			平成23年1月17日(月) ～2月11日(金)

募集人員数：推薦・第1次試験・第1次社会人特別入学選考含む

中村学園大学大学院 人間発達学研究科 (修士課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
第2次試験入学選考	平成23年 2月19日(土)	5名	平成23年1月24日(月) ～2月4日(金)
第2次社会人特別入学選考			平成23年1月24日(月) ～2月4日(金)

募集人員数：推薦・第1次試験・第1次社会人特別入学選考含む

中村学園大学

区分	試験日	学部・学科	募集人員	出願期間
試験入学選考 (後期日程)	平成23年3月7日(月)	栄養科学部 栄養科学科	5名	平成23年 2月18日(金) ～ 3月1日(火)
		教育学部 児童幼児教育学科	5名	
		流通科学部 流通科学科	5名	
		大学入試センター試験利用入学試験 (後期日程)	①平成23年度大学入試センター試験の成績を基に合否判定を行う。 ②本学の個別学力試験は課さない。	栄養科学部 栄養科学科 教育学部 児童幼児教育学科 流通科学部 流通科学科

中村調理製菓専門学校

区分	試験日	出願期間
第6回入学試験	平成23年3月6日(日)	平成23年2月7日(月) ～3月3日(木)
第7回入学試験	平成23年3月26日(土)	平成23年3月7日(月) ～3月23日(水)

1日体験入学：平成23年1月16日(日)、2月19日(土)、3月19日(土)、10:00～14:00

中村国際ホテル専門学校

区分	試験日	出願期間
第6回入学試験	平成23年3月6日(日)	平成23年2月7日(月) ～3月3日(木)
第7回入学試験	平成23年3月26日(土)	平成23年3月7日(月) ～3月23日(水)

1日体験入学：平成23年1月16日(日)、2月19日(土)、3月19日(土)、10:00～13:00

第19回

アジア栄養科学ワークショップ

平成22年11月20日、西1号館10階大講義室において、第19回中村学園大学大学院アジア栄養科学ワークショップが開催されました。
本ワークショップは平成4年より大学院栄養科学研究科の主催にて毎年実施されてきました。

本年は「健康・長寿を目指す機能性食品研究の新展開」をテーマに、各分野で活躍の多彩な先生方をお招きし、専門的な視座から講演が行われました。会場からは質問も多数出るなど、充実したワークショップとなりました。



秦 小明 先生



渡邊 昌 先生



稲熊隆博 先生



矢野昌充 先生



プログラム

開会の挨拶

中村学園大学 学長 藤本 淳

基調講演

「日本の健康と長寿

- 機能性食品研究の新展開のために -

(社)生命科学振興会 理事長 渡邊 昌先生

講演

「機能性食品の新展開」

座長 中村学園大学大学院 教授 太田 英明

中村学園大学大学院 准教授 寺澤 洋子

1. 「中国における機能性食品素材の新展開」

中華人民共和国 広東海洋大学

教授 秦 小明先生

2. 「カンキツ類に関する疫学研究の新展開

- 三ヶ日町の研究事例から -

(独)農研機構 生物系特定産業研究支援センター

矢野 昌充先生

3. 「野菜摂取から見た機能性食品研究の動向」

カゴメ株式会社 総合研究所

主席研究員 稲熊 隆博先生

総合討論

「機能性食品研究の動向と展望」

閉会の挨拶

中村学園大学大学院栄養科学研究科

研究科長 中野 修治

SAFnet キックオフシンポジウムにポスター出展

平成22年12月12日、福岡大学を会場に開催された「SAFnet(Science for All Fukokkans network) キックオフシンポジウム 育てる・つながる・広がる 科学の楽しさ発信」に、本学の取り組みについて紹介するポスターを出展しました。

SAFnetとは、福岡県下の科学コミュニケーション事業を担う、大学自治体、科学館、企業などの機関や個人で構成される地域ネットワークで、協働でのイベント広報や理科実験教室、サイエンスカフェなどの開催を通じて、広く科学に触れる機会を提供している団体です。

シンポジウムへの参加は、本学と福岡大学、福岡歯科大学で構成される、地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会「の協力事項として実現しました。本学からは、①栄養科学部が採択された文部科学省特色GP「21世紀型管理栄養士養成システムの構築」、②中村学



園大学栄養クリニックの取り組み
③栄養科学部の太田英明教授の沖縄プロジェクト研究
（「沖縄産シイクワシャー由来のメタボリックシンドローム予防食品の開発」及び「カンキツ機能性成分を活用した保健機能食品の開発」の3点について、ポスターによる紹介が行われました。

プログラム

開会の辞 13:30

挨拶 13:30 - 13:45

提案機関 4 大学代表 九州大学総長 有川 節夫

連携自治体 福岡市 経済振興局長 松本 友行

開催校 福岡大学学長 衛藤 卓也

基調講演 I 13:45 - 14:20

「次世代への科学コミュニケーション活動」

科学技術振興機構理事長 北澤 宏一

基調講演 II 14:30 - 15:05

「科学技術立県・福岡県の創造について」

福岡県商工部長 塚元 憲郎

ポスターセッション 15:05 - 16:05

講演 & 理科実験 16:05 - 16:50

「東京サイエンスネットワークなど、他プロジェクトの取り組みについて報告」

東海大学 教育開発研究所 教授 滝川 洋二

SAFnet 紹介と今後の展開・意見交換

17:00 - 18:00

閉会の辞 18:00

付属幼稚園 だより



子どもとともに

中村学園大学付属あさひ幼稚園 副主任教諭
志水 陽子

入園式から9カ月が経ち、初めての集団生活に戸惑っていた年少(3歳)児も、今ではすっかり慣れ、園生活を満喫しています。

4月、入園してきた子どもたちにとって、1つ目の試練は「母親と離れること」です。なかでもAくんは、抱っこしている保育者の腕を振り払って園を飛び出そうとするくらい、毎日激しく泣いていました。きっと幼稚園という場所が嫌で嫌でたまらなかつたのだと思います。保護者の方と悩みながらの1学期…。少しずつ生活には慣れてきましたが、どこか不安そうな表情が残ったままでした。

2学期に入り、運動会などの行事を乗り越えていくうちに、Aくんの表情に変化が見え始めました。ある日、登園後の用意をしているAくんに「4月、毎日泣いてたの、覚えてる?」と聞いてみました。すると、「うん。でも、もう泣かないもん。」という答え。「何で?」と聞くと「強くなったからね!!」と自信満々に答えてくれました。

「強くなった」…。Aくんなりに、自分をふりかえり、その成長を感じていたのだと分かりました。日々の生活のなかでの「小さな積み重ね」が「大きな自信」となって今のAくんを支えていたのです。

生活に追われていると、「小さなこと」は見過ごしがちになってしまいます。しかし、毎日を大切に過ごしていくためには、「1日1日の積み重ね」と「自分をふりかえること」の大切さを実感することが必要なのだと思います。私も、子どもたちと共に生活を送ることのできる今の環境に感謝しながら、いつも子どもと育ち合える存在でありたいと思っています。



また、全体会議の翌日、11月1日に実施された「スタディーツアー」では、インドネシアやマレーシア、シンガポール、アメリカ合衆国、ハワイから

10月30日の午後に行われたシンポジウム2「大学の地域貢献と健康都市づくりをめぐる」には、本学・栄養科学部長の吉岡慶子教授が、「高齢者の栄養と食事(The Nutrition and the Diet for the Elderly Persons)」をテーマに講演され、南銀祐教授(WHO顧問、延世大学校)、国武和子教授(福岡大学)、内藤徹准教授(福岡歯科大学)とあわせて、専門的な視座から興味深いシンポジウムが展開されました。

また、全体会議の翌日、11月1日に実施された「スタディーツアー」では、インドネシアやマレーシア、シンガポール、アメリカ合衆国、ハワイから

10月30日の午後に行われたシンポジウム2「大学の地域貢献と健康都市づくりをめぐる」には、本学・栄養科学部長の吉岡慶子教授が、「高齢者の栄養と食事(The Nutrition and the Diet for the Elderly Persons)」をテーマに講演され、南銀祐教授(WHO顧問、延世大学校)、国武和子教授(福岡大学)、内藤徹准教授(福岡歯科大学)とあわせて、専門的な視座から興味深いシンポジウムが展開されました。

福岡ACAP2010
吉岡教授講演及び
スタディーツアー

平成22年10月30日、31日、アジア太平洋アクティブエイジング会議2010(福岡ACAP2010)が福岡大学をメイン会場に開催されました。本会議は、福岡ACAP2010実行委員会(委員長は小川全夫九州大学名誉教授・熊本学園大学教授)が

主催する国際会議で、東アジア地域で進む少子高齢化への対策について、国内外の研究者や政策立案者、団体及びアジアに新たに生まれる「エイジング・マーケット」に関心のある企業等を招聘し、複数の市民公開シンポジウムやワークショップ等が行われました。中村学園大学は、「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」の構成大学として、主催者の一員として参画しました。



の大学教員および研究者や行政の担当者、企業関係者等の参加者16名が中村学園大学を訪問されました。吉岡慶子学部長が取り組む栄養・健康分野の概要を説明し、栄養クリニック、学生支援センターの見学が行われました。大学の教育や研究の実践を通して、地域社会への健康の維持・増進に貢献している本学の姿勢を高く評価されました。ランチタイムには、学生食堂、食育館で一汁三菜定食を味わい、レシート上に栄養量や「食事バランスガイド」のコマを表示することで、学生や利用者が目に見えて栄養バランスを把握することを可能にした本学独自のシステムに、参加者から感嘆の声があがっていました。



大学オリジナルグッズ
第2弾の販売が始まりました

平成22年12月20日より、丸善キャンパスショップ中村学園大学店にて、大学オリジナルグッズ(第2弾)の販売が始まりました。

第1弾のペンセットとクリアフォルダに続く第2弾は、赤・青・黄・緑の4色のオリジナルメモ帳です。メモ帳にはミシン目が入っているので、メモしたものを綺麗に簡単に切り離すこともできます。

大学では引き続き、学園グッズの製作・販売を進めていく予定です。

研究助成・受託研究

ラット脳内セロトニン増加に及ぼすエピカテキン高含有素材の胃内投与の影響

【研究者】青峰正裕 教授
 (大学・栄養科学部)
 大和孝子 准教授
 (大学・栄養科学部)
 西山敦子 助手
 (大学・栄養科学部)



青峰正裕教授

【委託団体】株式会社ロッテ中央研究所
【委託金額】2,535,790円

【研究内容】脳内神経伝達物質であるセロトニンは、睡眠時以外は脳内に一定量放出され、心と体調を整えていることが知られています。セロトニンは脳内のドーパミン、ノルアドレナリンなどの情報をコントロールして精神を安定化させる作用があります。本研究では、エピカテキンの胃内投与による脳内セロトニン増加効果を動物実験で明らかにし、エピカテキン高含有素材の胃内投与による脳内セロトニン増加効果を緑茶カテキンと比較します。

黒大豆(クロダマル)及び加工食品を核とした「筑前町産農産物のブランド化」のために必要な調査研究

【研究者】甲斐 諭 教授
 (流通科学研究所)

【委託団体】筑前町
【委託金額】1,000,000円

【研究内容】筑前町では「食を核にした地域活性化」を企画しており、特に黒大豆を生産し、その加工品を製造して、地域特産品とする計画を策定中です。それを支援するのが本研究の目的です。



甲斐 諭教授

アジアのフードビジネスの活性化

【研究者】甲斐 諭 教授
 (流通科学研究所)

【助成団体】九州機販株式会社
【助成金額】300,000円

【研究内容】九州機販株式会社は、韓国や中国に食品関連機械を輸出して「アジアのフードビジネスの活性化」に取り組んでいます。それを支援するのが本研究の目的です。

平成22年度科学研究費補助金交付決定(追加採択分)

平成22年度交付額(直接経費+間接経費)

【研究代表者】内山文昭 教授
 (大学院・栄養科学研究科)

【研究種目】基盤研究(C)
【平成22年度交付額】1,820,000円

【研究課題名】妊婦・胎児栄養におけるIGF-1 IGF1Ps の役割



内山文昭教授

「健康づくりのための地域特産品の開発と食指導に関する研究」

【研究者】吉岡慶子 教授
 (栄養科学部)

【委託団体】筑前町
【委託金額】1,000,000円

【研究内容】本研究では、筑前町産黒大豆、木酢の特性・分析を行い、これらの特産品を用いて、健康づくりに適したレシピ開発及び学習会、調理講習会における食指導を目的としています。



吉岡慶子教授

腸内環境の改善を目指した美容食品「健康スイーツ」の開発・販路拡大

【研究代表者】三成由美 教授
 (大学・栄養科学部)

【共同研究者】・産業医科大学産業生態科学研究所健康予防食科学研究室 徳井教徳准教授
 ・福岡県食品産業協議会
 ・福岡県生物食品研究所

【助成団体】農林水産省

【助成名称】平成22年度農林水産省地域農工商等連携促進対策事業

【委託金額】3,105,000円



三成由美教授

平成22年度(第37回)研究調査助成金

【研究者】(学外者と共同)
 石黒万里子 講師
 (大学・人間発達学部)

【研究課題】格差是正に向けた就学前教育の比較社会的な研究 日米英独の比較から

【助成団体】財団法人 日本証券奨学財団
【助成金額】950,000円

【研究内容】幼児教育と初等教育の接続について、社会文化的な背景を踏まえた日本・アメリカ・イギリス・ドイツの比較研究を行い、日本の就学前教育に格差是正策としての視点を導入するための基礎的データを収集することを目的としています。



石黒万里子講師

やずや食と健康研究所2010年度助成研究

【研究者】津田晶子 講師
 (短期大学部・食物栄養学科)

【研究課題】食生活における異文化間コミュニケーションと語学ニーズ分析

：食を通じた国際交流と日英版食育ハンドブック作成のための予備調査

【助成団体】やずや食と健康研究所

【助成金額】500,000円

【研究内容】日本に長期的に滞在する外国人を対象に、宗教や文化などによる食生活の違いが、どのように、学校・職場・家庭生活での言語コミュニケーションに影響を与えるか、調査を行い、①日英版食育ハンドブック作成による情報提供、②食育を通じた国際交流を提案し、地域の国際化に貢献することを目的としています。海外の先行事例を研究し、日本に滞在する日本語を母語としない留学生、外国語教員、会社員、主婦などを対象にして食生活と言語(英語・日本語)使用に関する調査を実施します。



津田晶子講師

学友自治会主催

ソフトバレーボール大会、
バスケットボール大会を開催

平成22年10月23日、学友自治会主催のソフトバレーボール大会が本学体育館で行われました。毎年恒例の大会に参加したのは、男女混合チーム・女子チーム24チーム、計144人。「ベストファッション賞」を目当てに、仮装やコスプレで試合を行うチームも多く、会場は大盛り上がり。好プレー続出の試合に、場内からは歓声がたびたび上がりました。

優勝はネクロミスとアポトーシス、2位はラマーズ、3位はべが。ベストファッション賞にはAKB4+8Bteamが選ばれました。

続く11月27日には、同じく学友自治会主催で第1回男女協力バスケットボール大会が開催されました。男女6名ずつが1チームとなるこの大会には、18チーム、計216人が参加しました。試合は、前半女

子7分、後半男子7分の計14分で行われ、予選リーグ3試合の後、決勝トーナメントが行われました。

当日はあいにくの肌寒い天気でしたが、多くの学生が応援に訪れ、館内は熱気に包まれました。男女が協力して行う試合には見どころも多く、そのたびに大きな声援が送られました。第1回大会を制したのはHumanDチーム。2位に傷心会、3位チーム初心者の結果となりました。

2つの大会はいずれも学生の企画・運営によるもの。出場した学生はもちろん、応援してくれた友人たちとの絆を深め、普段接する機会の少ない他学部との親睦を図る絶好の機会となりました。



ソフトバレー



バスケット

藤川祐輔准教授が
瑞宝双光章を受章

藤川祐輔准教授（大学流通科学部）が平成22年秋の叙勲において、瑞宝双光章を受章されました。瑞宝双光章は、国家または公共に対し功労があり、公務等に長年従事し、成績を挙げた人に対して天皇から授与される勲章です。



教員の表彰

短期大学教育功労者表彰



平成22年10月、橋本俊二郎教授（短期大学部食物栄養学科）、笠井キミ子教授（短期大学部幼児保育学科）、久富さよ子教授（短期大学部幼児保育学科）の3名が、短期大学教育功労者表彰を受けました。



さよ子教授（短期大学部幼児保育学科）の3名が、短期大学教育功労者表彰を受けました。

社団法人全国栄養士
養成施設協会会長表彰



平成22年11月、藤田守教授（大学栄養科学部）、阿部志磨子准教授（短期大学部食物栄養学科）が、社団法人全国栄養士養成施設協会会長から表彰を受けました。この表彰は、多年にわたり栄養士・管理栄養士養成施設において教育に尽力され、多大な貢献をされた教員に対し贈られるものです。

教員の出版物
著者は、本学教員のみ記載、()内は出版社、発行年月

「21世紀のESP - 新しいESP理論の構築と実践 (英語教育学大系)」
津田 晶子 短期大学部・食物栄養学科・講師 共著 (大修館書店 平成22年12月)

審査が行われました。展覧会は東京池袋の東京芸術劇場展示ギャラリーにおいて、9月15日～9月19日まで開催されました。



井上 寛七 教授

美庵大賞展
美庵特別賞受賞

2010年度美庵大賞展に於いて、井上寛七教授（大学人間発達学部）の作品「天上の宴」が美庵特別賞を受賞しました。今回は展覧会の来場者の投票による

春になったら
ナカムラに行こう!

まずは受付へどうぞ!

パネルシアター
くらぶ
クイズ・ゲームもチェック!

ランチは「食育館」も
ご利用ください!

模擬授業で大学生気分!

春のオープンキャンパス

Nakamura Open Campus Spring 2011

2011
3.19
sat
10:00~15:30

予約不要 入退場自由 OK 保護者の方も歓迎

★模擬授業は3系統同じ時間帯に開催いたします。午前、午後2回とも違う内容です。
★このプログラムは予定です。変更やイベント追加などがありますので、詳しくはホームページなどで確認してください。

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
学部・学科相談コーナー	①10:00~12:00 ②13:00~15:00	①			②	
学生生活・就職・入試相談	10:00~15:30					
保護者対象入試説明会	13:00~13:50					
生徒対象入試説明会	11:30~12:20					
模擬授業 (栄養系・教育系・企業系)	①10:30~11:20 ②14:00~14:50	①			②	
在学生との交流	12:30~13:30					
クラブ・サークル紹介	12:00~12:50					
キャンパスツアー	①10:30~11:10 ②13:10~13:50 ③14:30~15:10	①			②	③
寮見学ツアー	①12:00~13:00 ②13:00~14:00				①	②



中村学園大学
中村学園大学短期大学部

〒814-0198 福岡市城南区別府5丁目7番1号 [E-mail] nyushi@nakamura-u.ac.jp

TEL 092-851-6762 (入試課直通) <http://www.nakamura-u.ac.jp/>

ACCESS ■ 地下鉄七隈線 天神南駅から別府駅まで9分。天神、博多駅から西鉄バスで約20~30分[中村大学前]下車。
■ 駐車スペースがありませんので、公共交通機関のご利用をお願い致します。



広報誌セロリの定期購読について

定期購読をご希望の場合は、購読料(2年分)として郵便小為替1,200円分と、郵便番号・住所・氏名・電話番号を書いた紙片を同封のうえ、学事課宛にお送りください。なお、広報誌の発行は、年4回(4・7・10・1月)となります。保護者の方には毎号送付しています。

[申込み先]

〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1
中村学園大学 学事課「広報誌定期購読申込」係